

2017年  
9月1日  
No. 104  
隔月1回発行

特定非営利活動法人  
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク会報

# ひきこもり

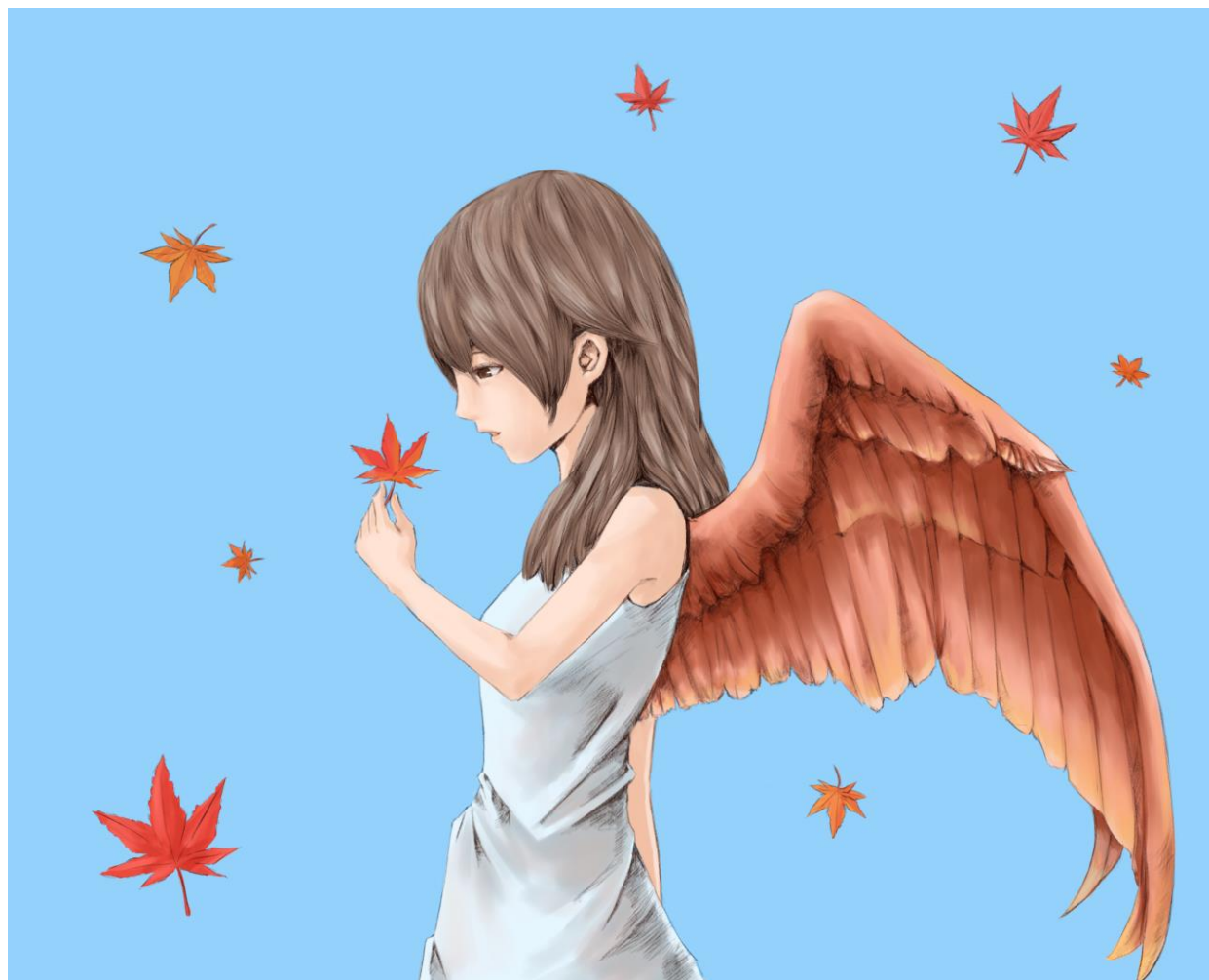


イラスト 高津 達弘

## Index

- 2ページ SANGO の会～賑やかな初心者例会  
第1回ひきこもりサポーター養成協議会開催ほか
- 3ページ 中高年ひきこもり当事者のライフプラン学習会開催  
2つの新しい助成金が決定ほか
- 4～5ページ  
ひきこもり つながる・かんがえる対話交流会が札幌で開催
- 6ページ 当事者手記「水鏡に、つゆ玉ひとつ」②
- 7ページ 無知、無関心ではいけない！伊深正英さんが語る ③
- 8ページ こちら事務局／編集後記

会報は、公益財団法人北海道地域振興協会・平成29年度ボランティア活動支援事業助成金により作成されています。

## SANGOの会 賑やかな初心者例会

7月19日、SANGOの会初心者例会でした。7名の参加があり、うち1名は初めての参加者でした。会場の札幌市ボランティア活動センターボランティア活動室が定員になることは滅多にありませんが、隣室でセンターからの依頼により軽作業に従事する当事者2名が後半加わり賑やかな集りとなりました。

8月9日、SANGOの会8月第149回通常例会でした。親が闘病中であるとか、お盆が迫りお墓参りを済ませたという40歳を超える当事者会ならではの話が心置きなくできるのも特徴です。

当NPOでは例会活動を2回開催していますが「初心者例会の初心者とはいままで指すのか？」という質問がありました。私たちは初心者とは主体である自分自身が初心者である、という自覚のある人は参加してください、とお伝えしています。

初心者例会は就学・就労している人もいる通常例会では落ち着かない人たちのためにつくった経緯がありますが、今日では初心者だけの参加の人や、両方参加している人、通常例会だけの人もいます。選択はご自身で、願っています。

9月以降、例会外企画として秋の地域めぐり登山を実施します。参加を希望される方は開催日時を団体ホームページでご確認のうえ事務局までご連絡ください。

## 第1回ひきこもりサポーター 養成協議会開催

7月25日、平成29年度第1回ひきこもりサポーター養成協議会を開催しました。今年度は年3回行う予定です。本協議会は、当NPOを含む構成4団体が集まり、厚生労働省がひきこもり対策推進事業の拡充として掲げる「ひきこもりサポーター養成研修・派遣事業」について検討をすることを目的としています。

北海道と札幌市は本格的なマンパワー的な養成研修はまだ実施しておりません。当NPOも含め慎重に議論をする必要があることから、今年度も「理解啓発」としてのひきこもりの理解普及事業としてユーストリームの動画配信を活用した事業を3回実施すること、またモデル事業として「居場所支援（会場の無償提供などを含む）」を盛り込み、ひきこもりサポーターの機能を個別家庭訪問支援だけに限定しない方向性も検討していくことになりました。

まだまだこれからですが当NPOも積極的に意見を述べて連携して進めていきたいと思っています。

## 不用品の寄付を受けインターネットを 活用した在宅ワークはじまる

SANGOの会拡充事業である札幌市市民まちづくり活動促進助成金「札幌圏ひきこも

り当事者会社会参加活動促進事業」の一環として6月より本格的に始動した「インターネットを活用した在宅ワーク」では、長く社会に溶け込むことができない当事者と協働で仕事づくりを実践するアイデア企画代表・屋代育夫さんの協力のもと、家庭で不要となった日用品などを寄付いただき、インターネットオークションへ出品した。集まった品物（写真1）は、電動ドリルからテレホンカード、アナログレコードまで多岐に渡る。

8月末までに30点が落札され、売上額は三万円を超えた。アイデア企画から参加した当事者2名が寄付された不用品を担当理事の吉川修司宅へ搬送、吉川理事がオークションへ出品し、落札された品物を梱包発送する流れで進めている。まだ試行段階だが、屋代さんは「いろんな働き方があってよい。新しい仕事づくりへの流れをつくりたい」と抱負を述べた。在宅ワークは来年3月まで実施。今後も不用品提供を受け付ける。希望者はアイデア企画まで（3ページ参照）。



（写真1）寄付いただいた品々～時計、アナログレコード、未使用のテレホンカードなど多数

## 中高年ひきこもり当事者の ライフプラン学習会開催

当事者会「SANGOの会」10周年企画として「中高年ひきこもり当事者のライフプラン学習会」を連続して開催します。

第1回目の講師は一般社団法人やまなしピアカフェ代表理事・永嶋 聡氏。永嶋氏は、小学5年生から中学校卒業まで不登校児童として過ごし、非正規労働者として職を転々とし、40歳から5年間のひきこもり生活を経て現在は元駐在所の建物を利用した「ピアハウスしようわ」の運営に携わっています。当日は「当事者が社会参加しやすい地域づくりをめざして」と題して講演を行います。

第2回目の学習会講師は人を最大の資本と考え、地域外人材と地域住民との協同による空き家等地域資源の活用に関する事業を行うNPO法人山村エンタープライズ代表理事・藤井 裕也氏が担当します。

ライフプラン学習会は、平成29年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金・木村弘宣ひまわり基金 助成金事業・札幌圏ひきこもり当事者会社会参加活動促進事業として実施します。開催要項は8ページをご覧ください。

## 応援クリックによる ご寄付をお願いします！

インターネット応援サイト gooddo（グッドゥ）のページ内からワンクリックで団体に課金されます。ご支援よろしくお願いします。

## 「それぞれの経験的知識がたぐひきこもりピアサポート」が優秀事業として選定

平成28年度に実施しました当事者参画型ひきこもり支援者養成研修プログラム開発事業『それぞれの経験的知識がたぐひきこもりピアサポート』（公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金事業）が、選考委員会にて優秀事業として選定され、助成団体が発行する機関誌「weatのウェルフェア」10月号「くつきり！福祉の未来形」に掲載されることになりました。ご支援ご協力いただきました皆さまに深くお礼申し上げます。

## 2つの新しい助成金が決定！

### 会報作成、サテライト事業を実施

このたび2つ助成金申請が厳正なる審査のうえ採択されました。今年度実施します。

北海道NPOファンド「越智基金」「市民活動支援基金」助成金では、札幌圏域の居場所支援拡充事業を実施し、小樽と苫小牧の家族会に呼びかけて「サテライトSANGOの会」を定期的に実施します。

また公益財団法人北海道地域活動振興協会平成29年度ボランティア活動支援事業助成金では、北海道ひきこもり世帯社会的孤立予防促進広報作成事業として会報「ひきこもり」を発行します。当事者やその家族にとって役立つ情報を届けていきます。貴重な助成金、ありがとうございます。

## ご家庭、物置で不用品になっているものはありませんか？

- 生活家電（炊飯器など、稼働品）
- 生活雑貨、小物など
- 古本（小説、専門書、漫画、コミックなど）
- テレホンカード（未使用）ほか

## 不用品の回収・お問い合わせ アイダ企画

TEL (011) 676-4540  
札幌市西区発寒6条14丁目14-40



## ご寄付ありがとうございます

- ・斉藤 太 様 6,000 円
- ・全国ひきこもり KHJ 家族会連合会北海道「はまなす」様  
テレホンカード、空気清浄機など4点
- ・アイダ企画代表・屋代育夫様  
双眼鏡など5点

その他の方々から絵葉書、三輪車、すべり台を寄贈いただきました。手紙によるアウトリーチ、インターネット活用による在宅ワーク、そのほか団体活動を円滑に進めていくために活用させていただきます。





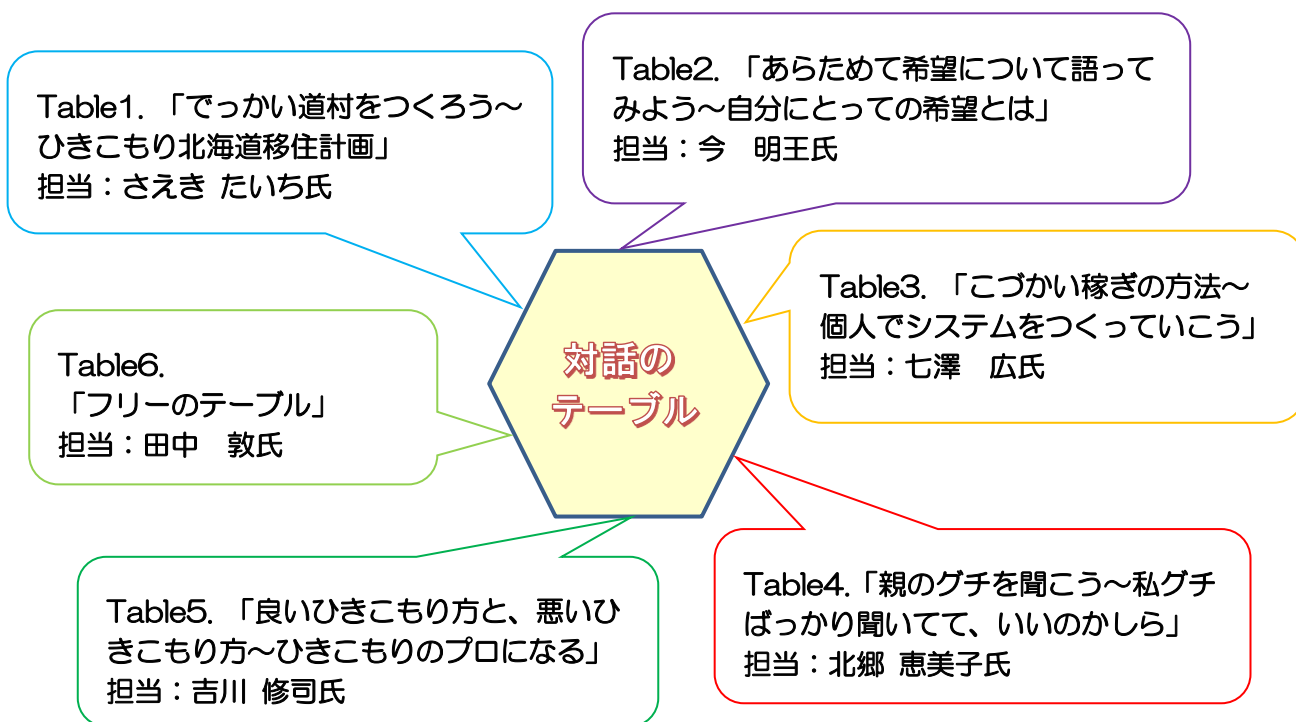
## 「ひきこもり つながる・かんがえる 対話交流会」が札幌で開催

### 6つのテーブルで対話～道外当事者も参加

当事者、家族、支援者、一般参加者たちが立場を超えた対等な関係で対話交流するイベント「ひきこもり つながる・かんがえる 対話交流会 in 札幌」（以下対話交流会）がNPO 法人KHJ 全国ひきこもり家族会連合会主催（以下KHJ）により8月26日北海道クリスチャンセンターで開催された。

開催前日、当事者経験者が担当するファシリテーター（対話を促進する役目 話題提供するテーブルオーナーも兼務）と当日司会を担当するひきこもりフューチャーセッション「庵・IORI」（以下「庵・IORI」）スタッフ・神垣 宗平氏、岡田 早苗氏、KHJ 本部事務局・瓜生 直樹氏、茨城県を中心に活動するひきこもり経験者の大谷 武郎氏ら総勢9名による事前打ち合わせを行い、対話交流会の趣旨説明、各テーブルで話し合うテーマを決め、開催日当日の午前10時から、スケジュール確認、役割分担を行った。

午後1時30分、全国ひきこもりKHJ 家族会連合会北海道「はまなす」会長・北郷 恵美子氏の挨拶に続き、神垣氏、岡田氏による司会進行で「対話交流会」が開始。総勢64名の参加者が集り、約2時間にわたり6つのテーブルに分かれて語り合った（図-1）。



（図-1）対話交流会で話し合われたテーブル・テーマ

Table1.では、昨年11月に創刊された「ひきこもり新聞」を頒布するために全国のひきこもり関連事業を周遊し続ける“ひきこもり外交官”のさえき たいち氏が、ひきこもりの人たちが安住できるところが少ないことから地価の高い大都市圏を離れ、土地が広い北海道へ転住し生活することを提案した。参加者からは「個々ばらばらでは苦しくなるため、同じ境遇の当事者たちが集まれる居場所をつくりたい」「廃校の教室や空き家を利用するというのはどうか」など、そのための前向きな意見がだされた。

Table2.では、十代のころから不登校ひきこもりを経験し現在は福祉職に就いている今 明王氏が、ひきこもりの人たちがもっている趣味や特技、やりがいや次への一歩になるため、音楽や映画などの趣味や影響を受けた言葉などを語り合い、今後の希望につなげていく内容で対話した。先々の不安が先行するため「希望」につながらない当事者の苦悩がみえる反面、ひきこもりの経験者が活躍する姿をみて励まされる親御さんもある。今回のイベント開催が一つの希望につながることを確認できたと述べた。

Table3.では、人に会いたくないひきこもり当事者の持つニーズを逆に活かし、雇われない生き方、個人で稼いでいく方法という内容で、ひきこもり経験者の七澤 広氏が参加者と対話した。参加した当事者からは「一人では（何か回数を重ねるには）さみしい」という意見がだされ、社会制度を利用した社会参加の方法も支援者から提示され、七澤氏は「参加者が情報を共有でき良かった」と述べた。

Table4.では、20年ひきこもるわが子を持つ北郷 恵美子氏が、ひきこもりで悩む親が抱える悩みを聞いた。深刻な悩みから次への一步を歩み出しているわが子を見続ける中で何をすればよいのかといった前向きな悩みまで多岐に渡る話を聞いた北郷氏は「あらためて短時間で親の悩みを聞くことの難しさを知った。簡単に答えがだせず、もう少し深く話がしたかった」と述べた。

Table5.では、当事者がより良い生活を維持していくために「良いひきこもり方」とはどのようなものかについて、49歳の当事者で当NPO理事の吉川 修司氏が話題を提供した。良いひきこもりのありようについてある当事者は、野球に例えて「2軍選手が復帰するためにはリハビリと良いサポーターが必要。自分にとって良いサポーターは病院の医師だった」と述べた。別の当事者からは「就職、結婚などのキャリアがない自分だが、ひきこもりというキャリアがあった」という前向きな発言もみられた。

Table6.は、当NPO理事長の田中 敦氏が疲れた時に立ち寄れるようなたまり場的なフリーのテーブルをつくり、多くの当事者、親、支援者が集まった。支援者からは「どのように当事者と関われば良いのか」「ひきこもり当事者の日常を知りたい」といった質問があったほか、当事者の立場からひきこもりからの第一を踏み出すために必要な居場所づくりとは具体的にどのようなものかについて対話した。

「対話交流会」はKHJが中央共同募金会・赤い羽根福祉基金の助成金を得て昨年度より継続して全国の主要都市で開催するもので、今年度は東北地方を中心に9か所で開催。会場にはフリースクール、家族会の出店も設置されたほか、大谷氏が手作業で作った手編みの靴下などの展示（写真-2）も行われ、



（写真-2）展示コーナーでは、七澤氏が自宅庭で育てたラベンダー、大谷氏が自社ブランドを立ち上げ製品化した手編みの靴下ほかが並ぶ



（写真-1）クロージングで得意のギターを演奏する今氏

れ、当事者自ら知恵を出し合い生活基盤の充実を目指す意気込みが強く感じられた。対話交流会の終わりには歌う精神保健福祉士の肩書を持つ今氏のミニライブも敢行（写真-1）。タンポポの綿毛に/この気持ちのせて～自作の曲「タンポポ」を熱唱。手拍子も加わり会場の雰囲気も和らいだ。

「庵・IORI」で培われてきた神垣氏、岡田氏の明快で和やかな進行により「対話交流会」が成功したことに加え、より当事者の自主性が発揮されたイベントになったことは大きな収穫といえるだろう。

## 私たちの仲間になりませんか 会員募集をしています

レター・ポスト・フレンド相談ネットワークは若者の範疇に入らない成年・壮年期のひきこもりへの対応に軸足を置きながら、ひきこもり当事者が社会に出たとき、自信や希望を持ちながら歩めるような新しい働き方を、当事者自らが創造しています。

ぜひ多くの方々に、私たちの活動の趣旨を理解していただき、ひきこもり当事者が自信をもって生きていくことのできる、新しい社会のあり方をみなさんとともに追求していきたいと考えています。

| 正会員                               | 賛助会員        | 寄付金         |
|-----------------------------------|-------------|-------------|
| 入会金 1,000 円                       | 入会金 1,000 円 | 一口 1,000 円～ |
| 年会費 3,000 円                       | 年会費 2,000 円 |             |
| 入会金、会費納入は、下記郵便振替口座へのお振り込みをお願いします。 |             |             |
| ●口座記号番号 02700-4-66261             |             |             |
| ●加入者名 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク        |             |             |

## 水鏡に、つゆ玉ひとつ② 小西恵司

## 『恋に、火がつく』

私は学生時代、ある女の子を猛烈に好きになりました。ヘアスタイルはセミロングでポップ。目はクリッと大きく、お胸とお尻に魅力的なふくらみのある身体。誰にでも分け隔てなく何でも話し、時折、顔を真っ赤にして恥ずかしがる、まさに男心の分かっていらつしやる女の子。携帯電話を四六時中、手に握りしめながら目の前の友人と話す人でしたが、いつしか私も親密に話すようになりました。

しかし、知り合って2ヶ月くらいで彼氏がいると分かったのです。恋を抱きやすい魅力的な女性の現実です…。ならば割り切るために私は、彼女を頭の中から追い出そう…。と強引な思いを抱いたのです。でも普通の友人として話すには嫌いになる要素などなく、彼女と会うたびに会話をするものの、好きな気持ちは無理に蓋をする。でもその蓋はもはや耐熱限界、頭の中は大噴火寸前の火山なのです。

彼女の髪の毛や身体から漂う匂い、時折みせる憂いある顔は頭から離れず、夜な夜な、男の生理現象を助ける財産となり、満足して冷静さを取り戻せば、また気持ちに蓋をしてやり過ごすこの繰り返し。実に、淋しい野郎で

すね。しかしこの輪廻の輪に、いつしか虚しさや嫌気が差し込んでくるのです。

## 『憎しみに、火がつく』

そんなある時、ニュースで携帯電話のマナーに関する記事を見つけた。瞬間的に頭の中で火が付き、気付けばインターネットの交流サイトにかのりの長文で、マナー問題に対する意見を毎日書き込むほど、ねちっこい主張をしました。あの時の文章は、論文として提出してもよいくらいの力作です。

さて、なぜ私はいとも簡単にマナー問題に火がついたか、わかりますか？…、予想はつくと思いますが、好きになった彼女が携帯電話を四六時中、離さずに持ち歩いてた姿が特徴として鮮明にあり、その彼女を私は頭から必死になって消そうとしていたからです。しかし考えてみて下さい。必死になれば余計に、彼女の存在が頭で強調されてしまうのです。若いうちは、この自己分析を冷静に行なえないものです。

自分が一番楽になる方法は、例えば彼女に彼氏がいたとしても、私自身の「好き」という気持ちは否定する必要はないのです。ただ現実の手続きとし

て、彼女には相手がいただけでお付き合いができなかった、というだけで、その線引きをした上で一人の大好きな親友としてつきあえば、実はそれが好きになった彼女自身を喜ばせる結果にもなります。もしくは、自分の思いを伝えるだけの意味合いで、思い切って告白するのでもいいでしょう。どちらにしろ、現実の線引きは必要ですけどね。失敗から得る教訓の一例が、これです。

## 『恋愛も自分を育む素材』

こんな経験を繰り返すのが恋愛です。しかし、これはあくまでも恋愛のごく一部分に過ぎないので、現実はこちらと多くの人間同士が茨を絡め合い、傷つき傷つけあうものです。私の経験上での話ですが…。傷ついた事を「被害」と考えるよりも、心の研磨剤へ変換できれば幸運なことです。同時に、自分の失敗談を素直に面白おかしく語る人の心は、幸せです。哲学書や恋愛論を読まなくても、世間を上手に渡り歩く人はたくさんいますが、それは恋愛などで実践を積んだ「強み」が、世間を渡る力へ化けるからです。だからこそ、他人の恋愛を鼻で笑って侮るばかりだと、心のどこかに渴きを感じて、そこから虚しさが肥大化してゆくのです。

## 『憎しみは、怪人二十面相』

過去を引きずる…。ひきこもりの

大きなテーマかも知れません。これ以上、嫌な過去を引きずりたくないから新たな経験も作りたくない、となって身動きが取れない場合もあるかと思いますが、可能な限り、何ごとも「よき思い出」に変えたいものですね。

今回は恋愛というテーマでしたが、例えば世間から何を言われようが、自分の心を自分で誤魔化してばかりいると自分が歪むのです。日本人は道徳が大好きですが、人を恨んではいけない、という説教で憎しみを封じ込めても、私の携帯電話のマナー問題のように、別の形で真実の心は怪人二十面相のごとく様々な変装をして登場するものです。

自分の憎しみを認めて自覚することは大切です。ただし、必要以上に憎しみに吞まれ過ぎて行動してしまつと、単なる「復讐の鬼」に過ぎません。そんな自分に気付ければよいのですが、東京のスカイツリー並みに立派な理屈を立てて、二十面相をしている自分を覆い隠してばかりだと、逆に相手へ伝えたいことは伝わりません。さらには、自分の魅力はいつしか底をついてしまします。魅力は誰にでもあります。それは「素直さ」と共に顔を出すものです。偉そうに語っていますが、数々の汚点を残す私だからこそ自覚はできたものの、素直さの無い自分は未だに大きな課題です。(笑)



## 無知、無関心ではいけない！伊深正英さんが語る ③

父親からの虐待、児童養護施設でのいじめを経験し、ホームレス支援団体でのパワハラがきっかけで道外へ逃避行した伊深正英さん（41 歳）は、2011 年の秋、自転車で下関まで到達し警察に保護され支援団体が身元引受人となり生活保護を受けました。しかし、宗教を母体とした支援団体から受ける信仰の圧力と保護を担当するケースワーカーから受ける厳しい指示の板挟みになる状態に耐え切れずさらなる逃避がはじまりました・・・。

（インタビュー：杉本賢治）

### ◆死にきれなかった自分を助けてくれた人

支援団体と生活保護から逃げるような思いで放浪し、行く当てもなくなり無人駅の構内で自殺するため睡眠薬を服用しましたが死にきれませんでした。まだ肌寒い2012年2月、唯一交友関係にあったAさんに電話連絡をしたところ直ぐに来てくれました。Aさんと話し合った結果、私はネットカフェで生活することになり、その料金はAさんが出してくれました。そのような生活が3か月続きました。

「このままではいけない」と言うAさんは、再度生活保護を自分に受けさせるため粘り強く説得してくれました。その時期は生きることが辛く脱力感しかありませんでしたが、Aさんほか数名の有志に支えられ無事にその年の5月には現在の居所で生活保護を受けることができました。

生活保護の受給が決まる前のある日、ある方が旭川までドライブに連れて行ってくれました。生活保護を受けることができるのか不安な時期でしたが、良い気分転換となり気持ちを落ち着かせることができました。

### ◆心療内科へ通って

現在の生活は6年目になりますが、この間2度自室から抜け出し数日間放浪しました。その時は死ぬことへの願望が内側から湧きあがり自暴自棄になっていたのかもしれませんが。現在は、そういった自分の状態を診てもらうため心療内科へ毎月通っています。

病院は3度変わっています。2度目の心療内科医師からは、抽象的な表現でただ前向きになるための言葉として「がんばれ」とか「治すために薬を出しているのだから伊深君しっかりしなきゃダメだよ」とよく言われました。私は自分でどうしてもできないから通院しているのに、そのような言葉をかけられて元も子もないような気持ちになります。当時は通院日が近づくと鬱（うつ）が強くてでしまい、病院へ行くのが怖かったです。医師からは「働きたいとは思わないのですか」「今のままで良いと思っていますのですか」と、医師の解釈が自分に向けられてしまいます。現在の私の状況をみてそれに応じた助言がほしかったのですが、スレートな意見をぶつけられました。

医師との意思疎通が上手くいかないことが壁になり、昨年の12月から心療内科に通院出来なくなっていました。今年の6月にケースワーカーさんの家庭訪問の時に半年も通院できていない状況は良くないので、住居から近くで評判の良い心療内科を薦めてもらいました。転院する場合、紹介状が必要ですが、私は連絡できないため、ケースワーカーさんが状況を伝えて紹介状を書いて送ってもらうよう仲介していただき、7月から新たな心療内科に通院できるようになりました。

通院してまだ二ヶ月ですが、主治医は転院するに至った理由を理解してくれていて、優しく見守りながら様子を見てくれて感じは良いです。以前のように社会に出て、誰かのために行動するにはまだまだ時間はかかりますが、何とか日々、生きて、前進していけたら幸いです。

（次号へつづく）

### 会報ひきこもり次号予告：

特集・ピアが織りなすチカラとともに働き合うジョブサポートほか。ご期待ください。

皆様からの投稿をお待ちしています

〒064-0824 札幌市中央区北4条西26丁目3-2

「NPO 法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」事務局 通信編集部 宛

e-mail ; info@letter-post.com

### ◆「SANGOの会」例会のご案内

2017年9月～10月は下記日程にて行います。初めての方も参加できます。概ね35歳前後のひきこもり当事者や経験者で、人との関係や会話に慣れたいと思っている方、またいろいろな情報を得たいと考えている方は、いらしてください。詳細は事務局までお問い合わせください。初めて参加される方で、少人数で会うことを希望される方は、事前に事務局までメール、電話で問い合わせのうえ初心者の例会にお越しください。

#### 《初心者例会》

と き：①9月25日（月）午後1時30分から午後3時30分まで  
②10月25日（水）午後1時30分から午後3時30分まで  
会 場：①札幌市社会福祉総合センター4階 特別会議室  
②札幌市社会福祉総合センター4階 ボランティア活動室

#### 《通常例会》

と き：10月18日（水）午後1時30分から午後3時30分まで  
会 場：札幌市社会福祉総合センター3階 第三会議室  
場 所：札幌市中央区大通西19丁目（地下鉄西18丁目駅下車徒歩5分）



### ◆ 中高年ひきこもり当事者のライフプラン学習会 開催のお知らせ（詳細は2ページ）

第1回・開催日時：平成29年9月17日（日）午後1時00分から午後3時30分まで  
第2回・開催日時：平成29年11月12日（日）午後1時00分から午後3時30分まで  
開催場所：北翔大学北方圏学術情報センターPORTO 5階 会議室A  
住所：札幌市中央区南1条西22丁目1番1号（地下鉄東西線・円山公園駅から徒歩5分）  
参加対象：ひきこもり当事者経験者とその家族、支援者など  
参加費：お一人につき500円（資料代）  
定員：50名（参加希望多数の場合は先着順になります）  
申込み方法：参加申込書に必要事項を記入の上、Eメールまたは、FAXで申し込む

### ◆ ピアが織りなすチカラとともに働き合うジョブサポート 開催のお知らせ

ひきこもり経験という貴重なピアが織りなすチカラとともに新たな働き方をつくりだすジョブサポートのありようについて全国から6名の代表当事者を招聘して検討を深めていきます。

開催日時：平成29年10月29日（日）午後1時00分から午後5時00分まで  
開催場所：北翔大学北方圏学術情報センターPORTO 5階 会議室A  
住所：札幌市中央区南1条西22丁目1番1号（地下鉄東西線・円山公園駅から徒歩5分）  
参加対象：ひきこもり当事者経験者とその家族、支援者など  
参加費：お一人につき500円（資料代）  
定員：50名（参加希望多数の場合は先着順になります）  
申込み方法：参加申込書に必要事項を記入の上、Eメールまたは、FAXで申し込む

### ☆ 編集後記 ☆

早いもので秋の気配を感じる季節となりました。9月からは当NPO主催の主要な事業が予定されております。ぜひ多くの方々とお会いできますことを願っています。また本誌は今号より公益財団法人北海道地域活動振興協会・平成29年度ボランティア活動支援事業助成金採択により発行していくことになりました。この場を借りまして道民の皆さんに心からお礼申し上げます。

（発行責任者 理事長 田中 敦）

無断複製はおやめください